

## 夢ではない、今あるものを最大限に使って 野田村の将来像を考える



岩手県野田村 愛宕神社

### ■活動地域

岩手県九戸郡野田村

### ■活動期間

2011年7月28日～継続中

### ■活動体制

工学院大学 野澤研究室／八戸工業高等専門学校 河村研究室／首都大学東京 玉川研究室／首都大学東京 市古研究室

### ■活動キーワード

東日本大震災／復興／地方創生

### ■2017年度メンバー

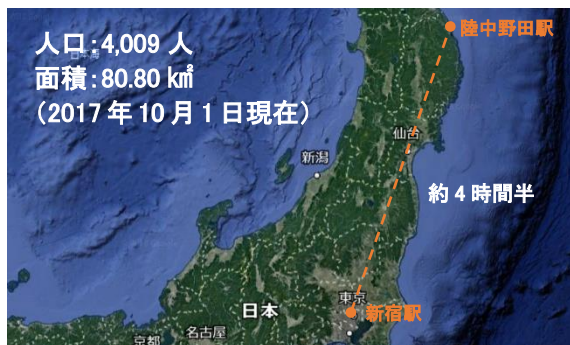
M2 杉浦 美穂／B4 会田 尚樹  
／福田 麻美／B3 宮崎 裕子

### -活動経緯-

2011年3月11日に起こった東日本大震災において、岩手県野田村では、津波によって村内の住家1/3が被害を受けるなど、中心市街地や漁港など広域にわたって甚大な損害を被った。

2011年度より八戸高専の河村研究室、首都大学東京の玉川研究室と市古研究室、工学院大学の野澤研究室、計4つの研究室が主体となって、復興まちづくりを提案するCWSを行ってきた。

この4つの研究室では都市や建築について勉強しており、その知識を活かしてまちづくりの提案を行っている。



### -対象地の概要-

岩手県北部にある、太平洋に面した小さな村である。長くゆるやかな砂浜が続く「十府ヶ浦海岸」や清流「安家川」や「和佐羅比山」など豊かな自然に恵まれている。特産品は、野田湾で採れる「ホタテ」や「ワカメ」、「ハウレンソウ」、「山ブドウ」や海水を数日間煮詰めて作る「のだ塩」などが有名である。

### -昨年度までの活動-

2011年度からCWS形式で復興まちづくりの提案を行ってきた。2013年度から、より村に寄り添った提案を行うために、夏に生業・民泊体験を行い、それをもとに半年間かけて提案をまとめる形に変化した。少しずつCWSの形式とは離れているが、村民と学生の距離を縮め、野田村に根付くような提案を目指している。

近年は村内の復興が進み、野田村が抱える人口減少などの課題に対して、地方創生をテーマにまちづくりの提案を行っている。

## 2017年度の活動内容

8月に夏合宿として、民泊体験や村内見学や各班に分かれた生業体験（農業体験・野田祭の山車制作・トレイル体験など）、村民の方との交流会などを行った。

これらの体験をもとに半年間かけて提案をまとめ、2月にもう一度野田村を訪れ、村民や村役場の方に向けた提案報告会を開催した。

### 【農業班:会田】

昨年度より事業が開始された涼海の丘ワイナリーにおける山ぶどうワインプロジェクトを中心とした提案を行った。夏合宿にてワイナリーを訪れ、見学や醸造方法の把握、ワインの試飲をした。もともと高品質な山ぶどうが獲れていた野田村では初めての加工施設とあり、村の期待が高まっている一方で、醸造本数や品質、原料となる山ぶどう農家の高齢化など課題もある。ワイナリーの発展が野田村の付加価値を高めることに繋がると捉え、安定的かつ高品質なワインの供給をするための提案を行った。

### 【トレイル班:杉浦、福田、宮崎】

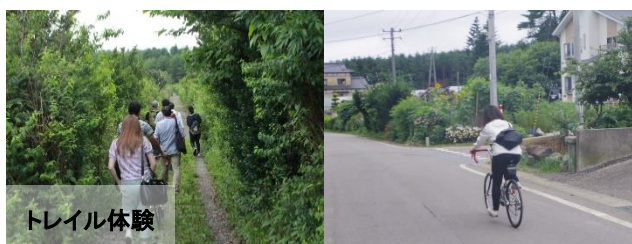
潮風みちのくトレイルの開通をうけて、野田村における徒歩や自転車での観光（トレイル観光）について提案を行った。夏合宿では、約2時間かけて久慈市の小袖海岸から野田村まで、約1時間かけて陸中宇部駅から陸中野田駅までトレイル体験をした。海や山、田園風景などの自然や村内の人とのコミュニケーションに、歩くことでしか体験できないことの魅力を実感した。それら体験をもとに、村外の人が必要とする野田村の情報や設備などを具体的に提案した。また、村内外の人で合同ワークショップを開催し、トレイル観光について考えていくことの必要性も意見した。



民泊体験



涼海の丘ワイナリーや山ぶどう農家の見学



トレイル体験



村民の方との交流会

